



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：首相選候補者の確定

(5日付リビア・ヘラルド)

1. 5日に首相候補の登録手続きが締め切られ、12日実施予定の首相選候補者8人が確定した。従前から有力候補と見られていたアブシャゲール第一副首相、ジブリール「国民勢力連合」代表、イブラーヒーム電力・再生可能エネルギー相の3人に加え、以下の5人が立候補を届け出たことが判明した。

(1) ムハンマド・バラウイー

ベンガジの学生運動に参加した経験を有し、1977年に米国に移住した。その後、米国のテキサス A&M 大学で政治学の教授を務めていたが、リビア内戦が勃発したことを受け、昨年12月に故郷ミスラタに戻り、同地における地方評議会選挙の実施に貢献した。ミスラタ地方評議会選挙で同人が採用した選挙システムはその後、各地で地方選挙が行われる上でモデルケースともなった。

(2) ムハンマド・ムフティ

リビア史を専門とする作家・研究者。1943年に東部デルナで生まれ、1968年に英国のリーズ大学で医学博士課程を修了した。その後、東部ベンガジで外科医を務める傍ら、医療・外科雑誌を発行するとともに、英語版およびアラビア語版の医療書籍を多数著作しており、これらはリビア社会史において著名な業績のひとつとされている。また、反カッターフィー活動に関与したとして10年の刑期を言い渡されたこともある。

(3) ファーティー・アッカリ

高等教育科学研究省の次官（副大臣格）。1998年にアイルランドのダンドーク技術研究所に入所し、次にダブリンのタラ技術研究所に移って電気エンジニア工学の講師を務めていたが、内戦勃発を受けてリビアに帰国した。

(4) アブドゥルハミード・ナミ（略歴不明）

(5) マブルーク・ズワイ（略歴不明）

2. 首相選挙の立候補に際しては、国民議会議員15人以上からの推薦を受ける必要がある。アブシャゲール副首相の陣営は、議員60人前後から支持を得たと主張するほか、ジブリール代表の陣営は議員80人余りから、イブラーヒーム電力相の陣営は議員50人前後からそれぞれ支持を取り付けたとしている。しかし、議員総数200人のうち、75人はこれら有力候補の支持に回っていないと見られており、いずれの陣営の主張にも疑念が残る。